

No.05 天星 News Topics

今号から編集長になりました。よろしくお願いたします。



熱気に満ち溢れている
試合会場の様子



2月1日(日)、浜松市立笠井中学校体育館にて「令和8年度浜松市民スポーツ祭レスリング大会」が開催されました。大会には静岡県内と愛知県のレスリング教室に所属する児童・生徒約100名が幼年の部、小学生の部、中学生の部に分かれて試合をしました。マットとシューズがこすれる音、親御さんたちの声援、体育館を包み込む熱気を肌で感じ、自分の幼少期を思い起こさせるような大会でした。天星製油は、大会の主催者であり、静岡県西部で唯一のレスリングクラブ「浜松SSFC」への支援を通して今大会に協賛し、弊社お取引先であるメロン農家さんの温室メロン、入賞者用賞品などを贈呈しました。参加者の皆様、浜松SSFCの皆様、お疲れ様でした！

※浜松SSFCではメンバーを募集中です。
お問い合わせは 053-434-1630 (坂田様) まで。

No.06 天星★二都物語

Episode.10 【地形が生む2つの風ー遠州のからっ風と八ヶ岳おろしー】

浜松市と笛吹市は、どちらも冬になると特徴的な季節風が吹きます。浜松市は「遠州のからっ風」、笛吹市周辺では「八ヶ岳おろし」です。今回は、冬を象徴する2つの季節風をご紹介します。浜松市は、北に赤石山脈、南に遠州灘、東に天竜川、西に浜名湖をもつ、南北に長い地形です。北側に高い山地、南側に海があるため、冬になると北西からの季節風が山を越え、遮るものなく市内を吹き抜けます。天竜川流域は扇状地で、山地から平野へ一気に地形が開けるので、風が弱まることなく、そのまま遠州灘へ向かって流れていくのです。こうして吹く強い風が「遠州のからっ風」です。からっ風という名称は、湿り気のない「空っ風」に由来し、山を越える過程で水分を失った冷たい風の性質をそのまま表しています。遠州の中でも浜松市周辺はからっ風の代表的な地域です。洗濯物が飛ばされたり、

向かい風や砂埃に悩まされたりと、冬の暮らしに大きな影響を与えていますが、一方で魚の干物づくりなどの食品加工に活かされてきました。対する笛吹市では、冬の訪れとともに「八ヶ岳おろし」と呼ばれる風が吹きます。八ヶ岳は笛吹市の北西にそびえる日本百名山の一つです。からっ風が乾いた季節風の総称であるのに対し、おろし(風)は山地で冷やされた空気が山の斜面を吹き下ろす局地風を指す言葉です。阪神タイガースの応援歌「六甲おろし」の「おろし」もこれと同じですね。笛吹市の地形は、北に大蔵経寺山、南に御坂山系の山々が連なり、山地・扇状地・沖積平地で構成される典型的な盆地に分類されます。山梨県のほぼ中央に広がる甲府盆地の東側に位置し、夏と冬、昼と夜の気温差が大きく、日照時間が長い内陸性の気候が特徴です。冬になると、八ヶ岳南麓で冷やされた空気が重くなり、

山の斜面を伝って甲府盆地へ一気に流れ込みます。この北西風が「八ヶ岳おろし」です。冷たく乾いた風は果樹の病害を抑える効果があり、桃やぶどうの一大産地である笛吹市にとっては、厳しさの中にも恵みをもたらす存在です。遠州のからっ風と八ヶ岳おろし。どちらも地形が生み出す冬の風物詩であり、それぞれの土地の気候や人々の暮らしを映し出しています。風を手がかりに、自分の暮らす地域を見つめ直してみるのももしろいかもかもしれませんね。



No.01 編集長イジマのご近所探訪記 file#16

地域に支えられ
自分らしさを育む中学校



浜松市立鹿玉中学校
教頭
鈴木亮さん

前号に続き、今回もテーマは地域の教育現場についてです。浜松市立鹿玉中学校にお邪魔させて頂き、鈴木亮教頭先生にお話を伺いました。

一鹿玉中学校の生徒たちの雰囲気や、大切にされている教育方針について教えてください。

教頭：本校の生徒たちは非常に真面目で優しく、穏やかな子が多いのが特徴です。ただ、自分から進んで前に出るのが少し苦手な、控えめな一面もあります。そのため、行事や日々の活動を通じて、おとなしい子も含めた一人ひとりに「活躍の場」を作ることを大切にしています。生徒たちが安心して過ごし、自分らしさを発揮できる学校づくりを目指しています。

一具体的に力を入れている取り組みはありますか？

教頭：今年で3年目になるキャリア教育「君たちはどう生きるか」をテーマに異学年交流を取り入れている点です。3月の発表会では、3年生が後輩にアドバイスを送ったり、自分の歩みを伝えたりと、学年を越えた学びの循環が生まれています。

一今の時代、ICT(情報通信技術)の活用も欠かせないと思いますが、現状はいかがでしょうか。

教頭：1人1台のタブレット端末は、今や鉛筆やノートと同じように当たり前の道具になっています。私たちは「タブレットを使うこと」自体を目的とするのではなく、「必要な時に、自分らしく使いこなす」姿勢を重視しています。例えば、修学旅行の調べ学習では、以前の本を使った学習に比べて格段に効率的に、詳しい情報を集められるようになりました。また、課題のデジタル提出や、欠席した生徒へのリモート配信など、柔軟な対応も進んでいます。一方で、ネット上のトラブルや教員のスキルアップといった課題もありますが、AIの活用も含め、新しい技術をどう教育に生かすか日々研究を重ねています。

一地域の方々との関わりが非常に深いと伺いました。

教頭：本校の最大の自慢は地域の皆さんの圧倒的なバックアップです。学校運営協議会(CS)の方々も「何でもサポートするよ」と本当に温かく見守ってくださ

ています。生徒たちも「あら活(奉仕活動)」として、1年生が近隣の幼稚園や保育園のプール清掃を手伝いに行くなど、地域への貢献活動を行っています。また、学校の広大な敷地の草刈りを、地域の方が「学校に恩返しをしたい」と自発的に手伝ってくださることもあり、その深い愛着と結束力にはいつも感謝しています。

一最後に、変化の激しい時代を生きる生徒たちへメッセージをお願いします。

教頭：今はどこからでも膨大な知識を得られる時代ですが、大切なのはそれを「いかに自分のものとして生かしていくか」という力です。情報の波に振り回されることなく、自分の「芯」を持って、吸収したことを自分の力に変えていってほしいと願っています。

鹿玉中学校では、生徒一人ひとりが安心して自分らしさを発揮できる環境づくりが進められています。異学年交流やICTの活用、地域との深い連携を通して、子どもたちは確かな学びと成長を積み重ねています。変化の時代を生きる生徒たちが、自分の芯を持って未来へ歩み出す力を育むそんな学校の姿が印象的でした。

<発行>

天星製油株式会社

検索

<HP>



〒434-0003
静岡県浜松市浜名区新原 3833-1
TEL: 053-586-9911
https://www.tenboshi.com/

天星製油・社員座談会 —「エコメン」の新メンバーが語る仕事の魅力

今回は、最近入社し、設備のメンテナンス部署「エコメンテナンスグループ」で働く3人のスタッフが集まり、「天星製油に入社してどのような変化があったのか」について語ってもらいました。

その前にエコメンテナンスグループの仕事内容についてご説明します。同グループは油系機械設備や側溝、分離槽など排水系統の設備工事や清掃・点検を行っており、その他、産業廃棄物の収集運搬や処理、漏油の処理等の幅広い業務を担当しています。

同グループでは計13名の社員が日々、様々なお客様の所へおうかがいし、皆様のお役に立っています。

参加メンバー紹介

- | | | |
|---|---|--|
| <p>加藤さん (20代)
前職：工場
2025年入社</p> <p>ハマっていることは植物を育てることです。日々、色んな変化を楽しむことができておすすめです。</p> | <p>春田さん (30代)
前職：営業
2024年入社</p> <p>最近ハマっていることはダイエットです。60キロ台を目標に、毎日体重計の数値と戦っています。</p> | <p>伊藤さん (20代)
前職：工場
2025年入社</p> <p>ハマっていることはF1観戦です。車が好きで、特にF1マシンの技術やスピードに魅力を感じています。</p> |
|---|---|--|



Q 天星に入社したきっかけ

春田さん：以前の職場で天星の名前を知る機会があり、**転職活動の中で何気なく思い出し、YouTubeで動画を見てやってみたいと感じ応募しました。**

加藤さん：以前の職場に天星のタンクが置いてあり、名前は知っていたことから、天星で働いている先輩に話を聞く機会がプライベートであり、その話がきっかけで応募しました。

伊藤さん：前職は毎日同じようなことの繰り返しで、「自分には向いていない」と感じ、自分に合った働き方を求めて転職活動していました。その中で、たまたまネットで天星を見つけ、父親も天星を知っていたので、内容をみて応募しました。

Q 会社に入って良かったところ

春田さん：今の仕事内容は、毎日違う所へ行き、毎日違う作業を行っているので色んな刺激があり、チャレンジマインドで楽しく仕事ができているのが良いところです。

加藤さん：職場の雰囲気が良いところです。失敗しても丁寧に教えてくれる先輩方がいて人間関係に気がつくようなこともないので、**仕事がやりやすい環境です。**

伊藤さん：「失敗して覚えよう」のスタンスで教えてくれるので、できることから挑戦させてくれますし、基本的には何人かで作業をするので安心して挑戦できることです。

Q 入社して驚いたところ

春田さん：産業廃棄物の会社は「汚い、臭い」という先入観がありましたが、初めて本社や工場を見たときに、自分がイメージしていたよりも綺麗で、臭いもそんなに感じなかったことが驚きでした。

加藤さん：色々な現場に行く仕事なので休みが取り辛い覚悟で入社しましたが、実際はすごく休みがとりやすい環境で、先輩方もどんどん有休を使っているのには驚きました。

伊藤さん：**自分が最年少だったことです。**でも、最年少の私に、先輩方は優しいですし職場の雰囲気がいいので、それが嫌だと感じたことはありません。これから新卒募集が始まるそうなので、春から同じ世代の人が入ってくるのが楽しみです。

社長からの一言！

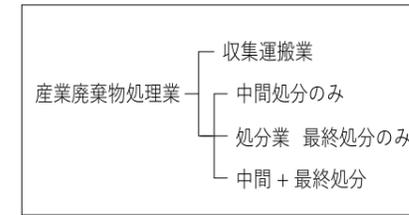
3人とも個性があって将来が楽しみです。やがては、中堅、ベテランと成長していく中で、初心忘れるべからず、会社とともに自らも発展するべく切磋琢磨していきましょう！

一般廃棄物と産業廃棄物の区分については、コラム第8号で、前月号では一般廃棄物のうち、家庭ごみの処理について記載しました。今回は、産業廃棄物の処理について書いてみます。

この話をするとき、まず最初に理解いただきたいのは、産業廃棄物は一般廃棄物と異なり、市町村では受け入れをしないということです。つまり市町村は、一般廃棄物に関する処理責任は有していますが、産業廃棄物については一切その責任を負わないという決定的な違いが存在します。「産業廃棄物の処理責任は、排出事業者にある。」という大原則が掲げられています。ところが、中小零細事業者が多い国内の状況において、排出事業者自らが産業廃棄物の処理を完遂させることなど稀なことです。現実的には、他者にその処理を代行してもらうことしか処理責任完遂の術はないと言えます。そのとき依頼する相手は誰でも良いということではなく、許可権限を有する県知事又は政令市長から許可を取得した「産業廃棄物処理業許可業者」でなければならないという規定が

存在します。いわゆる「産廃処理業」と呼ばれる業態です。弊社も、この許可を取得し、金属加工場、ガソリンスタンド、自動車整備工場等から排出される廃油を中心とした産業廃棄物の処理を受託しています。

産業廃棄物処理業許可については、読者の皆さんに知っていただきたいことが沢山ありますので、今回は許可の種類に絞ってお伝えさせていただきます。



上図のように、産業廃棄物処理業許可は、大きくは①収集運搬業許可と②処分業許可に分かれています。①は、産業廃棄物発生場所である事業者のところで積み込みを行い②の処分業者の工場以降ろす業務です。②は排出者が直接持ち込んだ産業廃棄物又は排出者から①の業者を経由して持ち込まれた物を受入れて処分を行う

業務です。②はさらに、機械設備等を用いて割ったり、焼却したりする中間処分業と埋立処分を行う最終処分業、さらにはその両方を行う業務の許可に分かれます。ここで、重要なことは、運搬業務と処分業務はそれぞれ別個に許可を受ける必要があることと、許可された業務の範囲を超えて業務を行うことは許されないことです。**つまり、産廃処理業者であれば、どのような物も取り扱え、どのような処理行為もできるのではなく、業者毎にその取り扱い能力が審査され許可証が交付されているのです。**



Key Word

- ☑ BCP防災訓練(12月)
災害時における身近なもので作れるグッズを作成。
- ☑ 漏油訓練(1月)
地下タンクについての知識向上テスト。
- ☑ 交通安全KYT訓練(1月)
タイヤチェーンの巻き方講習。



漏油対応について一連の流れを訓練しました



企業連絡会を開催しました

項目	排ガス	放流水	観測孔(水質)
		生活環境項目	
実施日	(2025.12)	(2025.11~2026.1)	(2025.12)
測定結果	○	○	○